

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

2 各問題の出題意図と解答結果

センター試験から共通テストへの移行に伴い、大問ごとに問うポイント（文法・語彙など）を明確にするとともに、資料の読み取りや長文の読解に重点を置く問題構成とする変更を行った。

これまでのセンター試験における問題作成の大枠と良問の蓄積を受け継いだ上で、基本的知識を問う問題と、思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスに配慮し、問題の数、配列、配点を見直した。具体的には、語彙問題の数を減らし、設問形式も語彙知識を直接問うものから、語句の用法に基づいて正解を導くものに変更し、語彙問題減少分を読解問題に重点化して配分した。また、大問の配列を、発音、文法、語彙・表現、整序作文から意味内容、読解へと問題の漸進性に配慮して変更した。今年度もこの形式を踏襲するとともに、思考力を問う問題をより重点化した。

なお、フランス語の表記は従来の正書法に従っているが、近年フランスの学校教育に導入された新たな正書法と齟齬が生じないように配慮した。最近の傾向を踏まえ、また、受験者に分かりやすさなどの配慮から、大文字にもアクサン記号を付けている。

第1問 発音問題

つづり字の読みを通して、「聞く、話す」能力の基礎となるフランス語の発音に関する基本的知識を問う問題である。つづり字と発音の関係の理解度を試すために、できるかぎり多様な出題を心がけた。

問1は語頭と語中の「ill」の発音を問うもので、正答率が高かった。問2は語末の「f」の発音の有無を問うもので、成績中位層以上に対する識別力は高かった。問3は語中の「e」の発音を問うもので、正答率も標準的、識別力が高かった。問4は語末の「s」の発音の有無を問うもので、正答率が高く、識別力も十分なものであった。問5は「語末の子音と後続する単語の語頭の母音のリエゾンの規則」を問うもので、正答率はやや低かったものの、成績中上位層に対する識別力は高かった。

第2問 語形変化の問題

語形変化を文法・語彙の知識と関連づけて問う複合的問題である。できるだけ多様な品詞にわたって出題するよう配慮した。文法、つづり字に関する基礎的な知識を広く試すよう努めた。

問1は動詞 *souffrir* からその過去分詞形 *souffert* を問う問題であり、受験者にとって難度が高かった。問2は動詞 *descendre* から名詞 *descente* を問う問題であり、成績中位層以上に対する識別力が高い問題であった。問3は動詞 *arriver* からその名詞形 *arrivée* を問う問題であり、正答率は高かった。問4は形容詞 *mou* からその女性形 *molle* を問う問題であり、識別力が高かった。問5は形容詞 *adroite* からその対義語 *maladroite* を問う問題であり、正答率はやや低かったものの、識別力が高かった。

第3問 文法の問題

文法に関する基本的知識を問う問題である。基本的な文法事項を、偏ることなく、広く問う多様な問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

小問ごとに見ると、問5を若干の例外として、一定の識別力が示された。正答率の点では、過去分詞の性数を問う問2を除き、低めに抑えられた。問1は不定代名詞、問3は人称代名詞、問4は中性代名詞を問う、いずれも基本的な問題で、上位層の識別力が高かった。関係詞節中での倒置とともに関係代名詞を問う問5は、中上位層においてもやや正答率が低かった。

第4問 語彙・表現の問題

語彙・表現に関する基本的知識を問う問題である。与えられた文脈の中で、基本的な言い回しや慣用表現・熟語に関する知識を問う問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

正答率は問2がやや高めであったもののそれ以外はほぼ一定して低いことから総じて難問であったことが伺える。例えば、多義語としての *arranger* を問う問3は最上位層においても四つの選択肢の中で解答にばらつきが見られ、第4問の中での正答率が最も低かった。一方、*rendre service* という熟語表現を問う問2や *convenir à* の基本語義を問う問5は、中上位層の受験者を識別する良問であったと思われる。

第5問 対話完成問題

与えられた会話の一部から、日常生活における自然な状況を判断し、対話を完成させる問題である。具体的で想像しやすい場面や状況を設定しつつ、内容が多様なものになるよう心がけた。また、できる限り明解なフランス語による表現を採用した。さらに、会話の一部だけを読んで正答を導くことができる問題ではなく、会話全体を読まなければ正答できない問題を作るようにした。

正答率には多少のばらつきが見られたが、識別力は概ね高い問題であった。問1は会話文中の *suivre le conseil* という表現、選択肢の *un plan d'entraînement* という表現が、正答を導くための大きなヒントとなったと思われ、正答率が非常に高く、受験者にとって易しい問題であった。問4は状況がやや想像しにくかったのか、あるいは *reportée* といった表現が難解だったためか、正答率が低めであった。全体としての難易度は適切であったと考えられる。

第6問 整序作文問題

例年の出題形式・傾向どおり、与えられた日本語を手掛かりに、平易な語彙・表現を用いてフランス語で作文する能力を測ることを目的としている。問題の日本語文は、自然でありながらも正答を導きやすいものとなるよう配慮した。正しい語順を理解していなければ正答とならないよう工夫するとともに、空欄の位置によって難易度を調整している。

全体として識別力も高く、適切な作問であったと思われる。問3は他の問題に比べてやや正答率が低かった。形容詞の最上級が定冠詞付きの名詞に後置されることによって、並べ替えが難しかったと思われる。そのため、*Cette région a connu le plus chaud l'été de son histoire.* などとしてしまった受験者もいたものと想定される。問3以外の正答率は適正であり、全体としての難易度は適切であったと考えられる。

第7問 資料・会話読解問題

図や表を用い、日常生活や身近な問題についてフランス語の知識・読解力を問うとともに、それに基づいた思考力・判断力を試す問題である。受験者にとって親しみやすい題材となるよう心がけるとともに、図表等の資料に基づく適当な分量の文章または会話とした。AとBの中間に分かれ、内容と関連する会話なども提示しつつ、総合的に資料を読み解く能力を問うている。具体的には、Aは「レンタル農園についての案内」、Bは「海岸でのイベントに関する案内」を題材とした。なお、A・Bの設問形式、大問全体の配点は昨年同様である。

成績上位層はおおむね正答率が高く、識別力は高く保たれた。Aについては、問1は文章を読み、正しい図を選択する問題、問2は会話文を読み、二か所の空欄を補充する問題、問3は資料に関する文を読み、適切な選択肢の一つを選ぶ問題、問4は資料の内容と一致する選択肢を二つ選ぶ問題とした。Bについては、問1は会話文を読み二か所の空欄を補充する問題、問2は会話文を読みながら、適切な選択肢の一つを選ぶ問題、問3は資料を参照しながら適切な選択肢の一つを選ぶ問題、問4は会話文を読み、資料を参照したうえで、適切な選択肢を二つ選ぶ問題とした。

いずれも受験者のフランス語力を試すうえで、適切な問題であったと思われる。

第8問 長文読解問題

論旨が明快で論理に一貫性のある文章を素材として選び、事柄の因果関係や対立などを正確に読みとる力や、文意を正確に把握する力を測る問題である。特に今回は時事的な内容を扱う問題となった。なるべく平易な表現を使った読みやすい題材を選択すると同時に、一般常識のみで正答にたどり着けるような問題や、単語や成句の知識を問うだけの問題は排除するよう心がけた。さらに、時代に即した内容としながら、論旨を追いやすくするよう十分に配慮し、論理の展開に即して内容を把握できているかを試す問題を設けた。その結果、思考力・判断力を的確に測ることが可能な良問になったと思われる。

問1は下線部の具体例として適切なものを判断する問題、問2は第1段落の空欄に入る適切な語句を選択する問題、問3は第2段落の空欄に入る適切な文を前後の内容から判断する問題、問4は第2段落の空欄に入る適切な語彙を選択する問題、問5は接続語句を選択する問題、問6は下線部の具体例として示されていないものを判断する問題、問7は第5段落の空欄に入る適切な語句を選択する問題、問8は本文の内容と一致する文を二つ選択する問題、問9は本文の内容から適切なタイトルを選択する問題であった。全体的に内容の理解度を多角的に測る問題であったが、特に問6は識別力の高い問題であり、問9は正答率の低い難問であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

共通テストへの移行に伴う、資料の読み取りや長文の読解に重点を置く問題構成は、本年度も踏襲されている。全体の分量についても大きな変化はない。問題形式と内容についても、例年と同様、レベルとバランスに配慮した。得点のちらばりも適正であり、選抜試験に資するものであったと結論づけられる。

高等学校教科担当教員からは「基本的な問題，例外を扱った問題，応用力・読解力を必要とする問題をバランス良く出題する意向は読みとれる。」と方針についての評価があった。その一方で「素直にフランス語を読み解き解答を求める問いの重要性は，より重点を置かれるべきと考える」との指摘を受けた。「内容については応用志向が強く感得される問題が多かった。」という指摘，また「思考力を問うために解答までに多くの段階を必要とする出題が増えること」および「試験時間の増加がないまま，解答に時間がより多くかかる出題が増えていくのであれば，受験者への不利益に繋がりがねない。」という意見を受け止めつつ，今後も一層，良質な問題の作成を目指していきたい。

4 まとめ

以上，問題作成方針，問題形式と内容，高等学校教科担当教員から寄せられた意見を踏まえて解答結果を分析・検討し，問題作成分科会としての見解を述べた。

今回の試験については，識別力の高い問題が多く，幅広い受験者層への対応が的確であったと判断できる。難易度としても試験の目的にかなうものであった。今後も高等学校における学習範囲を逸脱しない適切な出題内容を心がけ，極度に難易度の高い問題や出題傾向の偏りを避ける配慮を維持しつつ，共通テストとして完成度の高い問題を作成し続けることを継続目標としたい。

なお，高等学校教科担当教員の方々を始め，各方面から有益な御意見を頂いたことに末筆ながら改めて御礼を申し上げたい。